

カラシラサギ Chinese Egret または Swinhoe's Egret

この珍客が「三番瀬に現る」の情報に現地に駆けつけた人は多いだろう。昨年のは本物でなかったとのことで、今年こそは本物を見ようと駆けつけたバーダーこそ「本物バーダー」といえよう。

さて、その英名が学者により二分されているので二つとも紹介しよう。

和名と全く同じ「中国のシラサギ」、即ち“Chinese Egret”である。この鳥の主な分布に基づいた命名である。

もう一方は“Swinhoe's Egret”－鳥類学者スウィンホーの名を冠した「シラサギ」である。Swinhoe 氏の発見、登録によるものであろう。世界的に定評のあるアメリカの「クレメンツのチェックリスト」では“Chinese Egret”を採用している。日本野鳥の会のフィールドガイド(英語版)でも“Chinese Egret”を採用しているので、ここでは“Chinese Egret”を優先し、他に“Swinhoe's Egret”も頭の片隅に入れておこう。ホンコンの図鑑では英名は“Swinhoe's Egret”を採り、漢字でずばり「黄嘴白鷺」としているのは面白い。

ついでながら「サギ」類に“Egret”と“Heron”があるが、大ざっぱではあるが全体的に白いものを“Egret”とし、青または灰色などの「色付き」のものを“Heron”としているようである。例えば、アオサギの“Gray Heron”、ムラサキサギの“Purple Heron”などが分かり易い。

アオサギの「アオ」がどうして“Gray”か？というとなら日本語の「アオ」の幅広いニュアンスと英語の具体性を重視する言葉の性格の差、とでもいおうか。確かにアオサギの色は「アオ」ではなく「グレイ」である。ここでは日本語の「アオ」を論じている訳ではないので単に“Gray Heron”と覚えておこう。間違っても“Blue Heron”と言わないように！

大宮のハクトウワシ